

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	びっこりいさらだ（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	2025年 2月 1日		2025年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8 (回答者数)	7
○従業者評価実施期間	2025年 2月 25日		2025年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5 (回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 28日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	事前に保護者に療育についての説明を十分に行ったうえで利用をしているため、利用者は楽しく、保護者は安心して利用をすることが出来ている。	最初の面談時に療育についての説明を作った資料を母親だけでなく、出来る限り両親共に見てもらい、両者から理解を得ることで、支援内容に納得して利用が出来るように配慮している。	利用の際に活動内容などが写真でLINEなどで送ることが出来て、保護者が毎日の様子を知る事が出来るような取り組みが出来ると良い。
2	児童がストレスがなく楽しく体を動かしてもらう環境づくりを行い、遊びの中から運動機能を高めるトレーニングを専門的視点を踏まえて行っている。	より楽しく、体を思い切り使った遊びやゲームを行うことで好奇心を刺激する、自分から体を動かすように促している。	施設内だけではなく外部の体育館や運動施設など、別の環境で遊ぶことでより多くの刺激や楽しみを持ってもらえるような取り組みを行う。
3	NCプログラムを使った学習やストレスフリー運動など、びっこりいさらだ独自の特別なプログラムを行い、他施設との差別化を図っている。	学習や運動に対して、より遊びやゲーム要素を取り入れて、拒否なく活動に参加できるようにプログラムを作成している。	びっこりいの独自のプログラムをより専門的に、より楽しく時代の流れに合わせながら職員間で研鑽や研修をし、進化を目指していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	外部に活動の様子を発信をしたり、他施設や児童との交流が行われていない。	施設内の活動に重点を置いているため、外部との交流に対して具体的な検討ができていない。	ホームページやInstagramなどにおいて施設情報を発信したり、他施設や児童などは利用が重複している児童との情報交換を通して交流が図れるようにしていく
2	構造上柱が活動スペースの中心にあることで活動のスペースが狭く、遊びや行動が制限されてしまうことがある。	現在使用している施設が放課後等デイサービス用の施設ではない為利用者のニーズに対応できない場面が見られている。	今後、施設の移設や新しい施設の立ち上げなどを検討も視野に入れつつ、限られたスペースの有効活用の検討が必要である。
3	バリアフリーの体制がなく、車いすや身体障害の児童の受け入れが制限されてしまう。	現在使用している施設が放課後等デイサービス用の施設ではない為利用者のニーズに対応できない場面が見られている。	今後、施設の移設や新しい施設の立ち上げなどを検討も視野に入れつつ、現施設でのバリアフリー対策が必要である。